

- 問1 8世紀の奈良時代、聖武天皇のころを中心として栄えた、遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受けた文化を何と呼びますか。東大寺の正倉院に収められた宝物にペルシアやインドの影響が見られるような、国際色豊かな特色を持つものを選びなさい。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. 天平文化 2. 飛鳥文化 3. 国風文化 4. 弘仁・貞観文化
- 問2 遣唐使の要請によって来日した鑑真が、当時の日本において果たした最も重要な役割は何ですか。当時の政治体制（律令制度）との関わりに注目して選んでください。 (2019年 秋田県公立入試 類似)
1. 大化の改新のあとに、公地公民の原則に基づいた新しい土地制度を全国に広めた 2. 武士の勢力を結集して平将門の乱を鎮め、天皇中心の政治を盤石なものにした 3. 正式な僧となるための儀式を行い、僧が守るべき規範を広めて国家による仏教統制を支えた 4. 東北地方の豪族をまとめ上げ、平泉を中心に独自の仏教文化を花開かせた
- 問3 東大寺にある、三角形の材木を組み上げた「校倉造」という建築様式の倉庫には、当時の国際交流を物語る工芸品が多数保管されています。この倉庫の名称と、そこで見られる国際的な特徴を持つ文化の名称の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
1. 平等院 - 国風文化 2. 金閣 - 北山文化 3. 法隆寺 - 飛鳥文化 4. 正倉院 - 天平文化
- 問4 律令制度のもとでは、全国から都へ「調」や「庸」などの税が運ばれました。これらの特産品に付けられていた木の札である「木簡」の記述から読み取れる、当時の税制の仕組みとして最も適切な説明はどれですか。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 都での市場取引において、金属製の硬貨の代わりに支払いに使われる代用貨幣として機能した 2. 地方の豪族が自身の権力を誇示するために、豪華な装飾を施して古墳に埋葬する副葬品として作られた 3. 文字を読めない農民に対し、仏教の教えを視覚的に伝えるための布教の道具として用いられた 4. 地方から都へ送る品物の内容や送り主の氏名・居住地を記録し、確実に税を徴収するための管理に用いられた
- 問5 律令制の崩壊過程において、農民が税負担から逃れるためにとった行動のうち、戸籍そのものを偽るのではなく、本籍地を離れて他国へ移動し、他人の家や寺社などに身を寄せる行為を何といいますか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 浮浪 2. 偽籍 3. 班田 4. 防人
- 問6 古代の日本において、対馬や北九州の沿岸部に「防人」が配置された主な理由として、歴史的背景をふまえて最も適切なものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. 蝦夷（えみし）と呼ばれる東北地方の人々の反乱を抑えるため 2. 白村江の戦いでの敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため 3. 種子島に伝来した鉄砲の技術が外部へ流出するのを防ぐため 4. 元寇によるモンゴル帝国の襲来を未然に防ぐため
- 問7 藤原不比等の娘である光明子が、臣下の出身として初めて皇后（聖武天皇の后）となった背景には、当時の政治と仏教が深く結びついていたことが挙げられます。この時代の文化的な出来事として正しい記述を選びなさい。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 聖徳太子が推古天皇を助けて政治を行い、法隆寺などの優れた建築や彫刻が残された。 2. 藤原道長が権勢を誇った時代に、唐風の文化から脱却したかな文字による文学が発達した。 3. 聖武天皇とともに仏教を厚く信仰した光明子の影響もあり、国分寺・国分尼寺の建立が進められた。 4. 藤原氏が摂政・関白として実権を握る中で、浄土信仰に基づき阿弥陀堂建築が全国に広まった。
- 問8 8世紀の奈良時代、唐から日本へ渡る際に5度の失敗と失明という困難を乗り越えて来日し、日本の僧侶に正しい規律を授ける制度を整えた人物は誰ですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
1. 空海 2. 行基 3. 鑑真 4. 最澄
- 問9 奈良時代、元明天皇の命により、各国の産物、土地の肥沃さ、地名の由来や古くから伝わる言い伝えなどを記録して提出させた報告書を何といいますか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 古事記 2. 日本書紀 3. 風土記 4. 万葉集
- 問10 奈良時代の税制では、田地に対して課される「租」のほか、17歳から65歳の男子に課される「調」、21歳から65歳の男子に課される「庸」などの重い負担がありました。こうした状況下で、政府が「墾田永年私財法」を制定した直接的な目的として最も適切な説明はどれか。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 戸籍に基づいた土地の配分制度を強化し、6歳以上の男女に与えられる口分田の面積を全国一律に拡大するため 2. 土地の私有を認めることで人々の開墾意欲を高め、不足していた田地を増やして税収を安定させるため。 3. 地方の農民に土地を分け与えることで、都での労役や特産品の納入といった負担をすべて免除するため。 4. 全ての土地を国家の管理下に置き直すことで、有力な貴族による土地の独占を防ぎ、公平な徴税を行うため。
- 問11 古代の遺跡から発掘された、都へ塩を税として運んだ際の荷札である「木簡」には、その土地の産物を納めた記録が記されています。この木簡に示された税制度の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 国司の命令により、地方で年間60日を限度に土木工事などを行うものであった。 2. 地方ごとの特産物を都に納めるもので、運搬の負担も伴った。 3. 収穫した稲の3%程度を納めるもので、主に地方の財源となった。 4. 都での労役（労働）の代わりに、布を納めるものであった。
- 問12 奈良時代、平城京を中心に展開された「天平文化」について、その成立背景と中心人物の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2017年 山形県公立入試 類似)
1. 聖武天皇が仏教による鎮護国家を目指し、唐の影響を受けた国際的な文化が形成された。 2. 桓武天皇が新しい仏教を保護し、山岳修行を中心とした神秘的な文化が形成された。 3. 藤原道長が摂関政治の全盛期を築き、かな文字を用いた女流文学が発展した。 4. 足利義満が日明貿易を推進し、公家文化と武家文化が融合した北山文化が形成された。
- 問13 律令制度における兵役の一つである「防人」について、その実態を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2016年 三重県公立入試 類似)
1. 都の宮中の警備を目的とし、全国の農民が1年の任期で交互に派遣された。 2. 東北地方の蝦夷の反乱を抑えるため、志願した農民が永住を前提に派遣された。 3. 外国船の来航に備えるため、江戸幕府が西国の諸大名に命じて組織させた。 4. 九州北部の沿岸警備を目的とし、主に東国の農民が3年の任期で派遣された。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天平文化	奈良時代の聖武天皇の時期、遣唐使の派遣によって唐の進んだ文化や技術、さらにはシルクロードを経由して西アジアやインドの文物が日本に流入しました。正倉院に遺されている「螺鈿紫檀五絃琵琶」などの宝物は、当時の日本がいかにも国際的なネットワークの中にあったかを示しています。
問2	答え 3 正式な僧となるための儀式を行い、僧が守るべき規範を広めて国家による仏教統制を支えた	当時の日本では、重い税（租・庸・調）を逃れるために勝手に僧侶になる者が増え、国家財政や秩序に影響を与えていました。鑑真は、正式な僧となるための資格を授ける「授戒」の仕組みを導入し、僧侶の質を管理することで、律令国家における仏教のあり方を整えることに大きく貢献しました。
問3	答え 4 正倉院 - 天平文化	聖武天皇の時代を中心に栄えた、仏教の影響が強く国際色豊かな文化を天平文化と呼びます。その代表的な遺物を収めているのが東大寺にある正倉院です。校倉造は、湿度の変化に合わせて木材が伸縮することで中の品物を守る工夫がなされた建築様式です。飛鳥文化は推古天皇の時代の文化、国風文化は平安時代中期、北山文化は室町時代の足利義満の時期の文化であり、それぞれ特徴が異なります。
問4	答え 4 地方から都へ送る品物の内容や送り主の氏名・居住地を記録し、確実に税を徴収するための管理に用いられた	発掘された木簡には、「どの国のどの郡の誰が、何を納めたか」が詳細に記されています。これは、中央政府（朝廷）が地方からの税を正確に把握・管理していた証拠であり、律令国家による中央集権的な統治の仕組みを具体的に示す貴重な史料となっています。宗教的な道具や貨幣、古墳の副葬品としての役割は、木簡の主な目的ではありません。
問5	答え 1 浮浪	農民が重い負担に対抗した手段には、戸籍の性別や年齢を偽る「偽籍」のほかに、登録された土地から勝手に離れる「浮浪」や「逃亡」がありました。これらは、律令国家が「公地公民」の原則に基づき、戸籍によって人民を把握し税を徴収する仕組みを維持することを困難にさせ、やがて班田収授法が機能しなくなる大きな要因となりました。
問6	答え 2 白村江の戦いでの敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた日本（倭）は、大陸からの報復や侵攻の危機に直面しました。これに対抗するため、九州の外交・軍事の拠点である大宰府や、その周辺の沿岸部を警備する必要が生じ、防人の制度が整えられました。
問7	答え 3 聖武天皇とともに仏教を厚く信仰した光明子の影響もあり、国分寺・国分尼寺の建立が進められた。	光明子は、父である藤原不比等の死後、藤原氏の権勢を維持するために聖武天皇の皇后となりました。彼女は熱心な仏教徒であり、病人の治療や貧しい人々の救済を目的とした施設（施薬院・悲田院）を設置したほか、夫である聖武天皇が進めた国分寺・国分尼寺の建立を強く後押ししました。これが天平文化における仏教の普及に大きく貢献しました。
問8	答え 3 鑑真	唐出身の僧である鑑真は、日本の僧からの強い要請を受け、正式な僧侶となるために必要な「戒律」を伝えるために来日しました。彼は奈良に唐招提寺を建立して律宗の開祖となり、日本の仏教制度の基礎を築きました。最澄や空海は平安時代初期の僧であり、行基は東大寺の大仏建立に協力した僧です。
問9	答え 3 風土記	713年に出された編纂の命に基づき、郷土の地理や産物、言い伝えなどを国ごとにまとめた地誌です。律令国家としての地方支配を強めるため、中央政府が各国の状況を詳細に把握する目的で作られました。現在は出雲国（島根県）のものがほぼ完全な形で残っているほか、数力国の写本が伝わっています。
問10	答え 2 土地の私有を認めることで人々の開墾意欲を高め、不足していた田地を増やして税収を安定させるため。	当時は人口の増加により、農民に与える口分田が不足し、政府は税（租）を徴収する基盤を失いつつありました。そこで、苦勞して開墾した土地が一定期間で国に没収される仕組みを改め、永年私有を認めることで、田地を開墾する動機づけを行いました。
問11	答え 2 地方ごとの特産物を都に納めるもので、運搬の負担も伴った。	木簡は、荷物の内容物や送り主を記したラベルのような役割を果たしていました。「塩」を税として都へ運んだ記録があることから、これは律令制の「調」に該当します。調は地方の特産物を納める税であり、納税者が自ら都へ運ぶ「運脚（うんきゃく）」という重い負担を伴っていたことが、発掘された木簡の記録から裏付けられています。
問12	答え 1 聖武天皇が仏教による鎮護国家を目指し、唐の影響を受けた国際的な文化が形成された。	天平文化は、聖武天皇が仏教の力で国家の安寧を願った（鎮護国家）ことが大きな推進力となりました。当時、日本は積極的に唐の制度や文化を取り入れており、都である平城京には国際的な品々が集まりました。選択肢にある密教の発展（弘仁・貞観文化）や、かな文字の普及（国風文化）は、いずれも平安時代の特徴です。
問13	答え 4 九州北部の沿岸警備を目的とし、主に東国の農民が3年の任期で派遣された。	白村江の戦いでの敗北後、大陸からの侵攻に備えるために九州北部の防衛体制が強化されました。防人はその中核を担いましたが、家族と離れて遠方へ赴く苦しみや生活の困窮は激しく、その様子は『万葉集』に収録された「防人歌」からも読み取ることができます。